

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 北海道財務局長

【提出日】 令和5年6月14日

【四半期会計期間】 第52期第3四半期（自 令和5年2月1日 至 令和5年4月30日）

【会社名】 総合商研株式会社

【英訳名】 SOUGOU SHOUKEN CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役会長 片岡 廣 幸

【本店の所在の場所】 札幌市東区東苗穂二条三丁目4番48号

【電話番号】 011(780)5677

【事務連絡者氏名】 取締役企画管理本部長 長岡 一人

【最寄りの連絡場所】 札幌市東区東苗穂二条三丁目4番48号

【電話番号】 011(780)5677

【事務連絡者氏名】 取締役企画管理本部長 長岡 一人

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第51期 第3四半期 連結累計期間	第52期 第3四半期 連結累計期間	第51期
会計期間	自 令和3年8月1日 至 令和4年4月30日	自 令和4年8月1日 至 令和5年4月30日	自 令和3年8月1日 至 令和4年7月31日
売上高 (千円)	13,259,730	13,755,713	15,311,384
経常利益 (千円)	555,785	668,943	215,373
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (千円)	401,184	460,044	178,927
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	350,641	440,448	160,452
純資産額 (千円)	2,664,930	2,855,201	2,474,741
総資産額 (千円)	9,410,757	8,924,163	8,948,649
1株当たり四半期(当期) 純利益 (円)	133.75	153.38	59.65
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	28.2	31.6	27.4

回次	第51期 第3四半期 連結会計期間	第52期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 令和4年2月1日 至 令和4年4月30日	自 令和5年2月1日 至 令和5年4月30日
1株当たり四半期純損失() (円)	50.44	57.93

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、ウィズコロナの下で徐々に経済活動が再開され、景気は緩やかに持ち直しの動きを見せました。一方で、ウクライナ侵攻の長期化により、原材料やエネルギー価格の高騰が続いたことに加え、急激な為替変動など、先行き不透明な状況で推移いたしました。

広告業界や印刷業界においても、個人消費や企業活動が徐々に回復を見せる一方で、価格競争による受注価格の下落に加え、原材料費の値上げなど依然厳しい状況が続いております。また、デジタルシフトが一層進んだことにより紙媒体の需要が減少しているほか、ライフスタイルの多様化、消費者ニーズの小規模・多様化が進んでおります。

このような状況の中、当社グループは、デジタル領域への取組みを大きな柱に据え、社内業務プロセスのデジタル化やデジタルコンテンツの制作、デジタルマーケティングなど、デジタル領域への取組みを一層押し進めております。また、小規模・多様化するニーズを的確に捉え、より効果的な顧客コミュニケーションを構築していくために、戦略マーケティング部を新たに新設いたしました。

当第3四半期連結累計期間における売上は、年賀状印刷事業で、引き続き年賀状の需要が減少傾向にあり、年賀状の受注件数は前年同四半期比約5%減少し、減収となった一方で、商業印刷事業では、企業活動が徐々に再開されている状況の中、積極的な営業活動も奏功し、チラシのほか店頭の販促関連も好調に推移いたしました。また、BPO事業についても、受注拡大に向けた取組みを強化したことで増収となりました。

利益面においては、原材料費やエネルギー価格の高騰により、生産コストが大幅に上昇しております。一方で、クライアントに対する交渉により販売価格への転嫁を図ったほか、引き続き委託業務の内製化など経費の削減に努めました。これら対策に加え、増収による影響が大きく、全体として増益となりました。

以上の結果、第3四半期連結累計期間の売上高は、13,755百万円（前年同四半期比495百万円増）となりました。また、営業利益は603百万円（前年同四半期比115百万円増）、経常利益は668百万円（前年同四半期比113百万円増）となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は460百万円（前年同四半期比58百万円増）となりました。

当社グループの利益は、第1四半期連結会計期間が、年賀状印刷の資材・販売促進費等の先行支出により低下、第2四半期連結会計期間が、年賀状印刷の集中及び商業印刷の年末商戦の折込広告の受注増により増加、第3四半期連結会計期間及び第4四半期連結会計期間が、年賀状印刷の固定費のみが発生することにより低下するという季節的変動があります。

なお、当社グループは「情報コミュニケーション事業」の単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を省略しております。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末における総資産は8,924百万円となり、前連結会計年度末に比べ24百万円減少しました。これは主に、商業印刷の売上等により、現金及び預金が255百万円増加し、減価償却等により固定資産が278百万円減少したことなどによるものであります。

負債合計は6,068百万円となり、前連結会計年度末に比べ404百万円減少しました。これは主に、短期借入金が702百万円減少したものの、未払法人税等が126百万円増加したことなどによるものであります。

純資産合計は2,855百万円となり、前連結会計年度末に比べ380百万円増加しました。これは主に、利益剰余金が394百万円増加し、その他有価証券評価差額金が29百万円減少したことなどによるものであります。

(3) 優先的に対処すべき事実上及び財務上の課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間における研究開発活動の状況及び研究開発費の実績は軽微なため記載しておりません。なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	8,000,000
計	8,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (令和5年4月30日)	提出日現在 発行数(株) (令和5年6月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	3,060,110	3,060,110	東京証券取引所 スタンダード市場	単元株式数は100株であります。
計	3,060,110	3,060,110		

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
令和5年2月1日～ 令和5年4月30日		3,060,110		411,920		441,153

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(令和5年1月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

令和5年1月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 60,600		権利内容になんら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 2,997,700	29,977	同上
単元未満株式(注)	普通株式 1,810		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	3,060,110		
総株主の議決権		29,977	

(注)「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式77株が含まれております。

【自己株式等】

令和5年1月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 総合商研株式会社	札幌市東区東苗穂2条3丁目 4-48	60,600		60,600	1.98
計		60,600		60,600	1.98

(注)上記株式数には、単元未満株式数は含まれておりません。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（令和5年2月1日から令和5年4月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（令和4年8月1日から令和5年4月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、太陽有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (令和4年7月31日)	当第3四半期連結会計期間 (令和5年4月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,529,860	1,785,065
受取手形及び売掛金	1,248,868	1,382,244
商品及び製品	29,812	30,752
仕掛品	28,636	8,395
原材料及び貯蔵品	634,956	659,771
その他	185,694	63,303
貸倒引当金	547	984
流動資産合計	3,657,281	3,928,548
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,458,172	1,389,720
土地	1,167,329	1,167,329
その他(純額)	1,030,174	848,177
有形固定資産合計	3,655,677	3,405,226
無形固定資産		
その他	266,071	237,564
無形固定資産合計	266,071	237,564
投資その他の資産		
投資有価証券	852,387	811,156
関係会社株式	14,723	14,723
その他	540,374	542,577
貸倒引当金	39,309	16,668
投資その他の資産合計	1,368,176	1,351,789
固定資産合計	5,289,925	4,994,580
繰延資産		
社債発行費	1,442	1,033
繰延資産合計	1,442	1,033
資産合計	8,948,649	8,924,163

(単位：千円)

	前連結会計年度 (令和4年7月31日)	当第3四半期連結会計期間 (令和5年4月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1 1,073,240	1 1,229,322
短期借入金	2 702,503	-
1年内償還予定の社債	20,000	320,000
1年内返済予定の長期借入金	505,849	520,122
未払法人税等	56,161	182,573
賞与引当金	23,074	61,314
その他	1 546,836	621,636
流動負債合計	2,927,663	2,934,968
固定負債		
社債	370,000	60,000
長期借入金	2,651,567	2,660,260
その他	524,676	413,732
固定負債合計	3,546,243	3,133,992
負債合計	6,473,907	6,068,961
純資産の部		
株主資本		
資本金	411,920	411,920
資本剰余金	481,185	481,185
利益剰余金	1,280,415	1,674,472
自己株式	21,878	21,878
株主資本合計	2,151,643	2,545,699
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	300,434	271,337
その他の包括利益累計額合計	300,434	271,337
非支配株主持分	22,663	38,164
純資産合計	2,474,741	2,855,201
負債純資産合計	8,948,649	8,924,163

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 令和3年8月1日 至 令和4年4月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 令和4年8月1日 至 令和5年4月30日)
売上高	13,259,730	13,755,713
売上原価	9,497,614	9,724,025
売上総利益	3,762,115	4,031,687
販売費及び一般管理費		
運賃	847,921	905,279
給料及び手当	1,154,251	1,220,341
貸倒引当金繰入額	230	995
賞与引当金繰入額	45,400	49,724
その他	1,226,106	1,251,819
販売費及び一般管理費合計	3,273,910	3,428,160
営業利益	488,205	603,526
営業外収益		
受取利息	157	124
受取配当金	4,220	4,450
受取賃貸料	16,485	14,728
作業くず売却益	6,673	10,258
受取手数料	29,861	24,607
助成金収入	-	797
貸倒引当金戻入額	18,973	23,198
その他	29,855	17,986
営業外収益合計	106,228	96,152
営業外費用		
支払利息	31,065	29,186
その他	7,582	1,549
営業外費用合計	38,648	30,736
経常利益	555,785	668,943
特別利益		
固定資産売却益	205	-
特別利益合計	205	-
特別損失		
固定資産除却損	286	148
関係会社株式評価損	1,115	-
特別損失合計	1,401	148
税金等調整前四半期純利益	554,588	668,794
法人税、住民税及び事業税	190,296	207,124
法人税等調整額	16,188	7,875
法人税等合計	174,107	199,248
四半期純利益	380,480	469,545
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失()	20,703	9,500
親会社株主に帰属する四半期純利益	401,184	460,044

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 令和3年8月1日 至 令和4年4月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 令和4年8月1日 至 令和5年4月30日)
四半期純利益	380,480	469,545
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	29,839	29,097
その他の包括利益合計	29,839	29,097
四半期包括利益	350,641	440,448
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	371,344	430,947
非支配株主に係る四半期包括利益	20,703	9,500

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (令和4年7月31日)	当第3四半期連結会計期間 (令和5年4月30日)
受取手形	740千円	- 千円
支払手形	12,290千円	155,849千円
流動負債その他(設備支払手形)	11,000千円	- 千円

2 当座貸越契約

運転資金の効率的な調達を行うため、取引金融機関と当座貸越契約を締結しております。

これらの契約に基づく借入未実行残高等は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (令和4年7月31日)	当第3四半期連結会計期間 (令和5年4月30日)
当座貸越極度額の総額	6,300,000千円	6,300,000千円
借入実行残高	700,000千円	- 千円
差引額	5,600,000千円	6,300,000千円

(四半期連結損益計算書関係)

売上高及び利益の季節的変動

前第3四半期連結累計期間(自 令和3年8月1日 至 令和4年4月30日)及び当第3四半期連結累計期間(自 令和4年8月1日 至 令和5年4月30日)

当社グループの利益は、第1四半期連結会計期間が、年賀状印刷の資材・販売促進費等の先行支出により低下、第2四半期連結会計期間が、年賀状印刷の集中及び商業印刷の年末商戦の折込広告の受注増により増加、第3四半期連結会計期間及び第4四半期連結会計期間が、年賀状印刷の固定費のみが発生することにより低下するという季節的変動があります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。

なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 令和3年8月1日 至 令和4年4月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 令和4年8月1日 至 令和5年4月30日)
減価償却費	391,470千円	359,056千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 令和3年8月1日 至 令和4年4月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
令和3年9月14日 取締役会	普通株式	59,988	20	令和3年7月31日	令和3年10月27日	利益剰余金
令和4年3月16日 取締役会	普通株式	29,994	10	令和4年1月31日	令和4年4月18日	利益剰余金

- 2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の
 末日後となるもの
 該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 令和4年8月1日 至 令和5年4月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
令和4年9月14日 取締役会	普通株式	29,994	10	令和4年7月31日	令和4年10月27日	利益剰余金
令和5年3月15日 取締役会	普通株式	29,994	10	令和5年1月31日	令和5年4月17日	利益剰余金

- 2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の
 末日後となるもの
 該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 令和3年8月1日 至 令和4年4月30日)

当社グループは、「情報コミュニケーション事業」の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当第3四半期連結累計期間(自 令和4年8月1日 至 令和5年4月30日)

当社グループは、「情報コミュニケーション事業」の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第3四半期連結累計期間(自 令和3年8月1日 至 令和4年4月30日)

区分	金額(千円)
商業印刷	7,642,517
年賀印刷	5,549,184
その他	68,028
顧客との契約から生じる収益	13,259,730
外部顧客への売上高	13,259,730

(注)「その他」は、プリントハウス事業等であります。

当第3四半期連結累計期間(自 令和4年8月1日 至 令和5年4月30日)

区分	金額(千円)
商業印刷	8,252,815
年賀印刷	5,445,642
その他	57,255
顧客との契約から生じる収益	13,755,713
外部顧客への売上高	13,755,713

(注)「その他」は、プリントハウス事業等であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自 令和3年8月1日 至 令和4年4月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 令和4年8月1日 至 令和5年4月30日)
1株当たり四半期純利益 (円)	133.75	153.38
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益 (千円)	401,184	460,044
普通株主に帰属しない金額 (千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益 (千円)	401,184	460,044
普通株式の期中平均株式数 (株)	2,999,433	2,999,433

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

第52期（令和4年8月1日から令和5年7月31日まで）中間配当については、令和5年3月15日開催の取締役会において、令和5年1月31日の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額	29,994千円
1株当たりの金額	10円00銭
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	令和5年4月17日

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

令和5年6月13日

総合商研株式会社
取締役会 御中

太陽有限責任監査法人 札幌事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 金子勝彦 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 田村知弘 印

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている総合商研株式会社の令和4年8月1日から令和5年7月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（令和5年2月1日から令和5年4月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（令和4年8月1日から令和5年4月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、総合商研株式会社及び連結子会社の令和5年4月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。